

包括的に相談を受け止める

■ 現状と課題

- ・世帯の単身化の進行や町会・自治会といった地縁を基盤としたつながりが希薄になる中、8050問題やDV、虐待、子どもの自殺の増加など「孤立」の問題が深刻になっています。
- ・困難を抱える人や家族が孤立の中から地域や支援者につながるためには、分野別の相談窓口を開設しているだけでは不十分です。困っている人に早期に出会うための取り組みが求められています。
- ・複合化した困りごとを解きほぐし解決を図っていくことは簡単ではありません。困難を抱える人の意欲や思いを最大限尊重しながら、継続的に関わりを持ち（伴走支援）、横でつながった地域や関係機関がチームで支援していく必要があります。

■ 地域での取り組み

- ・地域に関心を向け、自分の生活範囲の中で顔が見える関係づくりを心がけます。
- ・ネリーズに登録し、ネリーズ通信やネリーズ交流会を通じて、他のネリーズから地域活動のヒントを得たり、自身が心がけて取り組んでいることを発信します。
- ・困っている人や心配な様子の人がいたら声をかけてみたり、地域の相談役や近くの練馬区社協の拠点などに相談します。
- ・民生・児童委員や保護司会をはじめ、特定の目的を持って活動している団体などは、活動を通して見守りを行い、状況に応じて相談窓口につながります。困っている人が不安を感じている場合は相談窓口事前に電話したり、一緒に行くなど安心できるように提案します。

■ 練馬区社協の取り組み

- ・福祉の総合的な窓口として相談を受け止め、相談した人が安心できるよう丁寧に対応します。適切な相談対応ができるよう研修等を充実させ、相談対応の強化を図ります。
- ・練馬区から受託している「重層的支援体制整備事業」では、地域福祉コーディネーターが、地域に出向いて相談を受け止め（アウトリーチ）、相談者に寄り添った継続的な支援の充実に取り組みます。
- ・練馬区社協の拠点やねりま社会福祉法人等のネットとのつながりを生かし、関係機関や地域住民（ネリーズ）と連携を深め、既存の制度では対応できない複合的な課題に対応します。

目指す姿

誰もが安心して相談できる場や
人とつながっている



地域でこんな取り組みが
広がっています

困っている人を一人にしない

誰もが暮らしやすい地域を願うネリーズ、地域の身近な相談役である民生・児童委員など、地域には様々な力を持つ住民がいます。

また、「ぶどうの木」や「灯火」など、様々な課題に対してグループを作り、活動している団体もあります。公的な相談窓口も含め、そのような人や団体が横につながることによって、孤立が深まる前に周りの人が気づき、解決に向けた応援につながりやすくなります。誰ひとり取り残されることのない地域を目指します。

●ネリーズ コンビニエンスストア店長さん●

地域の中で何かできないかとお客さんを見守っている温かいコンビニのお話です。

ある時、お客さんの中にお風呂に入れている心配な方がいました。店長はどうしようかと考え、日頃から関係ができていた障害者地域生活支援センターういんぐのスタッフに相談しました。その後、地域包括支援センターとつながり、その方を一緒に見守っていくことになりました。



●民生・児童委員 玉井さん●

民生・児童委員は、住民の立場に立った相談・支援者であり、自らも地域住民の一員として担当地域において見守り、声かけ等を行っています。

「地域の住民の皆さんから身近な存在に思ってもらえるよう心がけて活動しています。

困りごとは様々です。声を上げられない人、人との関わりが苦手な方もいます。

時間がかかっても丁寧に話を聞き信頼関係づくりをしています。」



●ぶどうの木●

「ぶどうの木」は、DVや虐待、ハラスメントの被害を経験した方々が集う安心安全な居場所です。毎月自助グループを開催し、個別相談や同行支援、勉強会等必要な支援も行っています。家庭にも、社会にも、暴力は必要ありません。

～代表 森さんからのメッセージ～

「ひとりで悩まないで！大丈夫。ひとりじゃない！同じ苦しみを経験した仲間が待っています。」

～当事者の声～ 相談前の気持ち

「私の気持ちは誰にもわかってもらえない、話せない、独りぼっち…孤独でした」

「ぜんぶ自分が悪いと思っていた」

「誰か助けて！いつも心の中で叫んでいました」

ぶどうの木と出会って

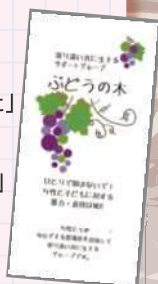
「相談をして一人で悩みを抱えこまなくなりました」

「夫から何もできないと言われたけど、

私にはできることがある、力があると思えた」

「今は辛い思いをしている人を

助けたいと思い活動しています」



●とも しび 灯 火●

「灯火」は、不登校、ひきこもり、発達障害の家族・当事者を対象として対話交流会や親の会、講演会等を行っています。



～代表 古賀さんからのメッセージ～

「大変だったよね。自分らしくいればいい！扉を開け続け活動をする中で、家族・当事者が出会い、お互いに癒され、生きるのが楽になるよう願っています。」

～当事者の声～ 相談当初の気持ち

「どこに相談したらいいのかわからなかった」

「世間体、世の中の価値観にしばられていた」

「子(親)の気持ちがわからないので聞いてみたい」

灯火と出会って

「みんな悩んでいることを知り、自分一人ではないと感じました」

「言葉にできなかった感情が仲間の言葉に出会って見えてきた」「自分の視野が広がりました」